報告

第27回中小企業活性化研究会・交流会開催報告

Report on the 27th meeting for the study of small and medium-sized enterprise

中小企業交流実行委員会、（社）日本技術士会提携栃木県技術士会

1 はじめに

第27回中小企業活性化研究会・交流会が、平成23年２月４日、栃木県宇都宮市において開催、企業関係者・関係官庁・団体など 63 名、技術士は71名で、研究会出席者は134名に達した。

2 大会の概要

2.1 見学会

日産自動車㈱栃木工場見学（参加者 57名）

本工場では日産自動車が販売する大形高級乗用車を生産していて、工場内の車両総組立てラインを身近に見学することができた。車両が完成するまでの工程や組立のサブラインとそれをサポートする日産生産方式も見学することができた。

また、見学者ゲストホールには日産独自の開発によるハイブリッド車、最近発売された電気自動車などが展示されており、一部でしたが体験乗車をすることもできた。

写真１　高橋会長の挨拶

2.2 研究会

宇都宮市ホテルニューイタヤ４階桜の間にて、（社）日本技術士会高橋修会長の開催挨拶に続いて、来賓の栃木県知事、宇都宮商工会議所連合会会長の挨拶で研究会が始まった。（写真１）

2.2.1 特別講演

「中小企業支援施策について」

副題―ものづくり支援策を中心に―

中小企業庁 創業・技術課長　佐藤文一氏

「中小企業の技術開発支援について」、「中小企業の現状と中小企業支援施策について」、「雇用を守る」、「仕事をつくる」、「中小企業を守る」の４つのテーマについて解説された。特に、中小企業の創意工夫への取り組みを応援し、技術士に対してはそれらへの果たされる役割に大いに期待したい旨のご講演をされた。

2.2.2 基調講演

「栃木の技術を活かす人づくり－地域イノベーションの展開とキーパーソンの育成－」

宇都宮大学 学長　進村武男氏

とちぎを元気づける地域イノベーションとは新たな価値を創造し、地域社会と経済を前進させる創造的活動を意味する。それは「人」によって進められる。即ち、埋もれた地域特性を抽出し、異分野の連携に着目し新たな価値を創造し実現しながらの仕組みづくりとその実践担う人「キーパーソン」の存在が極めて重要である。

キーパーソンは待っていても現れない。地域が育てるものであり、その出現こそ栃木を元気づける。異分野の人との出会い、知恵を出し合える場、キーパーソンを育てる場が早急に求められる。

2.2.3 事例紹介（その１）

「技能士を主体とした我社の人づくり」

菊地歯車㈱　代表取締役会長　菊地義治氏

昭和34年に大学卒業後直ちに父親の創業された現在の会社に入社、以後法人化などに伴い社長、会長を歴任され、その間には足利商工会議所会頭をされたが、現在は後進の指導などに邁進されている。

顧客の信頼を得るためには品質第一をモットーにそれをつくり込むには人であるとの理念に基き、目に見える会社独自の人材育成に傾注されていて、28年前から技能検定への取組みを、教育方法、先輩から後輩への技能伝承、褒章制度など一貫したカリキュラムにより実施されている。現在の従業員124名中何らかの国家技能士有資格者は101名、

内一級以上の技能士は67名に及んでいる。高級乗用車向け駆動系歯車、航空機用高精度歯車、建設機械向け重荷重ギヤーボックスなど他社の追随を許さない高品質で顧客信頼を得て、しかも多種少量生産にも対応されている。国内の中小企業活性化のための大変有益となる事例である。

2.2.4　事例紹介（その２）

「災害復旧事業を契機とした活力あるふるさとづくり」　余笹川流域連携ネットワーク会長 技術士 稲葉茂

平成10年8月末に栃木県那須地方は6日連続1254㎜,最大90㎜/hの豪雨に見舞われた。この地を流域とする余笹川がこれにより氾濫し死者・行方不明者６名、家屋全・半壊46戸に至る大きな災害が発生した。

栃木県によってこの災害復旧は３ヵ年計画が策定されたが、更にその後の自然環境の復元も考慮された「一定災」制度を初めて採用された。

そのため改修事業では河川環境に配慮した多自然工法が採用され、更に住民意見や漁協の意見を取入れて改修後の植生・魚類調査が地域住民、有識者、学者、行政を交えた巾広いネットワークを創って実施され、今日も続けられている。

本事例は住民や子供を交えた巾の広い新しい技術士の活動事例を示唆している。

2.2.5　事例紹介（その３）

「とちぎの次世代酒造技術者育成への取り組み」
栃木県産業技術センター食品技術部 岡本竹己氏

目標とする清酒は良質な水、適した米、酵母の働き、それらを組み合わせた技術で造られる。栃木県産業技術センターではこの良質な清酒製造に係わる研究支援として酒造好適米･酵母の開発を、また３段階に分けた「栃木県の杜氏(製造責任者)」育成コースを設定している。初歩的な酒造りの基礎を学ぶ「入門コース」、高レベルの酒造りと入門コースの指導役を担当する「実践コース」、講習会での特別講義の講師でかつ関係研究部会に所属する「杜氏コース」があり、平成18年に開設されて以来13名が認定されている。「下野杜氏」に求められるものは、①卓越した清酒製造技術、②栃木の材料・気候を熟知、③将来に向けての明確なビジョン、④積極的な後継者育成への協力である。これ等酒造技術者が真剣に酒造りに取り組んでゆくかぎりは世界に誇る日本民族の清酒は発展し続けると期待される。

最後に中小企業交流実行委員会二宮孝夫委員長から閉会の挨拶があり、研究会が終了した。

3　交流会

交流会は同ホテル３階天平の間で開催された。田仲栃木県技術士会会長の開会挨拶に続き、来賓を代表して福田富一栃木県知事が挨拶され、

写真２　挨拶される栃木県知事

関東各県技術士への今後の活躍への期待と、また、栃木県産品の紹介を兼ねて産業の発展を希望された（写真　２）。（社）日本技術士会高橋修会長の乾杯音頭で始まり、栃木県名産のいちごや清酒のＰＲなどで和やかな懇談のなか、次回開催県である千葉県技術士会松井隆会長から力強い意気込みの挨拶があり、栃木県技術士会菅井俊郎副会長の閉会挨拶で終了した。

4　おわりに

栃木県技術士会は平成22年6月に設立10周年を迎え、記念事業の一つとしての第27回中小企業活性化研究会・交流会の開催となった。平成 17年には第21回中小企業問題研究会が「ひと味ちがうモノづくり」をテーマに開催してから２回目の「共に挑もう人づくり」をテーマとした今回の内容には多くの有意義なメッセージがこめられていて、進化する中小企業支援の更なる糧となる研究会・交流会になったと考える。

中小企業交流実行委員会
（社）日本技術士会提携栃木県技術士会
柳瀬宣義（文責）